

学年	高校2年	教科	地歴公民	科目	倫理	単位数	3
教科書名	高校倫理（実教出版）			副教材名	詳解倫理資料新訂版（実教出版） 高校倫理新訂版演習ノート（実教出版）		
コース・クラス	N進文系						

## I 目標

1. 3年次の基礎学力到達度テストに対応できる実力を養う。
2. 青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高めさせる。
3. 倫理・政治・経済・国際関係などに関する諸課題について主体的に考察し、解決策を探究させる。
4. 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## II 授業のねらい

1. 青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める。
2. 人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立ち、公正な判断ができるようにする。
3. 進路目標に即した問題演習を行うことで、各コースの目標進路に対応できる学力を目指す。

## III 授業の進め方

1. 毎時間、冒頭に時事問題を取扱い、世の中の動きをつかむ。
2. 板書を軸とした講義に加え、電子黒板や図表も活用し、効率的に授業を進める。
3. DVDや図表を効果的に活用し、視覚から理解を深める。
4. 小テストを実施し、理解度を確認すると共に、単元ごとに基礎学力到達度テストレベルの問題を解く。

## IV 学習上の留意点

1. 倫理への関心・意欲を高めるような内容を授業に盛り込む。
2. 用語の暗記のみではなく、様々な事象と関連付けて覚えること。
3. 板書の書き写しだけではなく、口頭での説明を細かくメモし付随する知識も身につけること。

## V 定期試験

- 1学期 中間試験 【第1編 第1章（青年期の課題と自己形成）～第2章（第1節：ギリシア哲学）】
- 1学期 期末試験 【第1編 第2章（第2節：キリスト教）～第3章（第2節：日本の仏教思想）】
- 2学期 中間試験 【第1編 第3章（第3節：近世日本の思想）～第2編 第1章（第1節：人間の尊厳）】
- 2学期 期末試験 【第2編 第1章（第2節：科学・技術と人間）～（第4節：社会と個人）】
- 3学期 学年末試験 【第2編 第1章（第5節：人間への新たな問い）～第1章（第6節：社会参加と幸福）】

## VI 評価の方法

1. 各学期の定期試験
2. 小テスト

## VII 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	第1編：青年期の課題と人間の自覚 第1章：青年期の課題と自己形成 第1節：青年期の意義 第2節：青年期の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの実施</li> <li>・中間試験の実施</li> <li>・小テストの実施</li> <li>・期末試験の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の特質、青年期の意義について理解する。</li> <li>・葛藤や欲求不満など自己形成の課題について理解する。</li> <li>・自己の生き方について考察する。</li> </ul>
	5	第2章：人間としての自覚 第1節：ギリシア思想  第2節：キリスト教 第3節：イスラーム 第4節：仏教		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソクラテスの考え方や生き方、プラトンとアリストテレスの考え方、エピクロス派やストア派について理解する。</li> <li>・古代ユダヤ教の教えについて理解する。</li> <li>・キリスト教の成立とその後の発展について理解する。</li> <li>・成立の背景やイスラームの特徴について理解する。</li> <li>・バラモン教成立の背景、ブッダの教え、大乘仏教の成立とその思想について理解する。</li> </ul>
	6	第5節：中国思想 第6節：芸術と人生		<ul style="list-style-type: none"> <li>・孔子の教え、儒家思想の教え、老荘思想について理解する。</li> <li>・芸術の持つ意義について考察する。</li> </ul>
	7	第3章：日本人としての自覚 第1節：古代日本人の思想 第2節：日本の仏教思想		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の風土と日本人の自然観の特徴について理解する。</li> <li>・古代日本人の宗教観について、西洋の宗教観と比較する。</li> <li>・日本で受容された仏教の特徴、鎌倉新仏教の特徴、日本文化と仏教の関係について理解する。</li> </ul>
	9	第3節：近世日本の思想 第4節：西洋思想の受容と展開		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で受容された儒教の特徴、日本独自の儒学思想、古学の形成、江戸時代の多様な思想、洋学の普及について理解する。</li> </ul>
	10	第2編：現代と倫理 第1章：現代に生きる人間の倫理 第1節：人間の尊厳		<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題を考察する。</li> <li>・日本におけるキリスト教の受容、西洋近代思想、民俗学や文芸批評について理解する。</li> </ul>
	11	第2節：科学・技術と人間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンスの特徴、ルターやカルヴァンの思想、宗教改革、モラリストの思想について理解する。</li> </ul>
二学期	12	第3節：民主社会と自由の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の自然科学、機械論的自然観を理解し、それらが与えた影響について考察する。</li> <li>・ベーコンとデカルトの思想について理解する。</li> <li>・社会契約説、カントとヘーゲルの思想について理解する。</li> </ul>	
	1	第4節：社会と個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命が起こり、資本主義が進んでいく中で個人と社会の調和について考察する。</li> <li>・思想家アダム・スミスや功利主義を主張したベンサム、ミルの思想について理解する。</li> </ul>	
	2	第5節：人間への新たな問い 第6節：社会参加と幸福	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義の問題を指摘し、新たな社会をつくらうとする社会主義について理解する。</li> <li>・実存主義について理解する。</li> <li>・人間中心主義の再検討について考察する。</li> </ul>	
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の理性的な思考法について理解する。</li> </ul>	
三学期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの実施</li> <li>・期末試験の実施</li> </ul>	

※ シラバスの内容については、進捗状況、理解度、その他の都合により変更する場合がある。